

## 良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

### こんな時こそ「勇気づけ」と「よい出し」を!

指導課長 堀之内 尚史

日本では、令和2年1月から新型コロナウイルス感染症の感染が拡がり、コロナ禍と言われる状況が一年半も続いている。感染拡大防止のための緊急事態宣言やまん延防止措置が繰り返され、人々が疲弊する中、オリンピックは無観客での開催（首都圏）となった。

学校における教育活動は、新しい生活様式を取り入れ、授業や学校行事、部活動等に制限がかかる状況である。そのような中で、新学習指導要領の全面的実施、GIGAスクール構想の前倒しによる一人一台端末の活用が行われている。大人にとっても先の見えない大変な状況なので、子供たちにとっては尚更である。

文部科学省のHPを見ると、「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について」のページに、たくさんの通知や依頼、情報がアップされている。様々な対応が迫られる中、大事なことの一つに「心のケア」がある。子供たちの不安やストレスを、いかに軽減したり解消したりするか。それを行うのは、学校では教職員であり、家庭では保護者である。しかし、大人である教職員や保護者も不安やストレスを抱えている。大人も子供も、不安やストレスの感じ方は多様であり、それに対する対処法や耐性も人それぞれである。

このような状況下で必要なものは「勇気づけ」と「よい出し」だと思う。学校と家庭が連携し、子供を褒めるだけではなく、認め励ます「勇気づけ」の言葉（例：ありがとう、助かったよ、うれしいよ）が効果的である。相手に共感し、こちらの気持ちを伝え、相手に注目すること（見守っていると感じられるように）。つついやってしまうのが、「勇気くじき」と「だめ出し」。やる気を失い、自己肯定感を失ってしまう。マイナス面に焦点を当てず、個人の成長に声をかけ、一緒にこれからどうするか考えることである。

これは、教職員同士でも保護者同士でも大切なことである。お互いに様子を見ながら、小さな変化（サイン）に気付いたら、声を掛け合う、ゆっくりと話を聞いてあげること。遠慮しないで、ふだんからコミュニケーションを行い、苦しい・辛いと言えること。お互い様の気持ちで助け合うことが大切である。大切な子供たちを育てている教職員や保護者だからこそ、「勇気づけ」や「よい出し」が必要ではないだろうか。

### 健康・安全について

1学期も残すところあとわずか。日々、子供たちへの健康・安全への配慮、ありがとうございます。

#### 「熱中症対策」「水難事故防止」「交通事故防止」「新型コロナウイルス感染症対策」

これら、「命」に関わる取組について、夏季休業に入る前、改めて具体的な指導をお願いします。また、家庭、地域、関係機関等と十分な連携を図った一層の強化で、子供たちの健康・安全への確保をお願いします。

#### ○水難事故防止強調期間におけるスローガン 「水に親しみながら3M運動 みんなで めざそう 必ずの事故ゼロ」

準備期間 7月1日（木）～7月20日（火）  
実施期間 7月21日（水）～8月31日（火）

○交通事故0月間運動の重点項目及びスローガン  
「幼児・児童の道路への飛び出し防止  
～横断は しっかり よく見て たしかめて～」  
「自転車運転のルール遵守とマナー向上  
～保険に加入し、ヘルメットをかぶろう～」  
準備期間 7月1日（木）～7月31日（土）

### 北薩の授業づくり3ポイント

北薩教育事務所では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指して、北薩の授業づくり3ポイントの実践を推進しています。「**目標の明確化**」「**子どもが主役となる学び**」「**ラスト10分の充実**」の3ポイントです。

「目標の明確化」では、学習のめあてを全員で共有化し、ゴールを見通した導入に力を入れます。「子供が主役となる学び」は、ペアやグループ活動で、「なぜ」「どうして」を追究する学び合いを行うことで、思考が深まるような学習の展開を図ります。

「ラスト10分の充実」は、確実に時間を確保すること、「まとめ」を焦点化すること、確かめテスト等による「分かった・できた」を実感させることで、授業の充実を図ります。

QRコードをアプリで読み込むと、北薩教育事務所のHPから、ダウンロードすることができます。授業改善や自分の授業を振り返るよい機会となります。チェックしながら取り組んでください。



## 学校職員の事故防止について

本年度、管内における学校職員の事故発生件数は、昨年度の同時期と比較して増加しています。特に多い事故内容として、交通事故（加害）や公務中の負傷事故が挙げられます。

- **交通事故（加害）の事例**
  - ・ 右折のため停車している前方の車に気付くのが遅れ、追突した。
  - ・ 駐車のため車をバックした際、後方の確認不足により、出庫しようとしていた車と接触した。
- **公務中の負傷事故の事例**
  - ・ 脚立を使って高い所から降りる際、脚立が十分に固定されていなかったため、地面に転落した。
  - ・ 掲示物の設営のために使用した椅子から降りる際、バランスを崩し転倒した。

上記の事例は、一歩間違えると命を落としたり、大きな怪我につながったりするものです。教職員一人一人が「自分は大丈夫」と過信せず、危機意識を持ち、事故防止に努めていきましょう。

## 北薩地区道徳教育研修会

北薩地区道徳教育研修会を、6月25日（金）、**長島町立蔵之元小学校**、**長島中学校**で開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小し、小学校部会48人、中学校部会42人の参加でした。

蔵之元小学校は、自分の成長を実感できる振り返りシートの活用や話合いの充実に向けた「問いかけ名人」シートの活用、多様な交流活動により、児童は主体的に取り組んでいました。長島中学校は、先生方のTTによる指導体制が確立され、生徒が深く考え、意見を発表する場面が多く見られました。両校とも、児童生徒が主体的に意見を交わし、自己を見つめ、道徳的価値を深めていました。また学校が一体となり「考え、議論する道徳」に向けての授業改善に取り組んでおられます。



## 「ユニバーサルデザイン」の視点を意識していますか？

通常の学級や特別支援学級等において、**障害等による学びにくさ**を感じ、**困っている児童生徒**がいるのではないのでしょうか。「ユニバーサルデザイン」の視点に立った指導・支援は、全ての児童生徒にとって分かりやすい工夫や配慮につながります。

- **「言語指示」を減らして分かりやすく**  
屋外での活動では、言語指示が多くなりがちです。小黒板（大きめのホワイトボード）やスケッチブック等を活用して、活動内容を順に示すと、視覚的に理解しやすくなります。
- **「色」を強調して分かりやすく**  
避難経路図は、黒色のみで作成するのではなく、**避難経路図には一つの行動パターンだけ示し、色別で作成**して掲示すると、低学年の段階から理解しやすくなります。教師にとっても「避難経路1、赤色で避難します」のように、放送しやすくなります。

## 北薩地区人権教育授業実践研修会

北薩地区人権教育授業実践研修会を6月3日（木）、宮之城文化センターで開催しました。今回は、薩摩川内市及びさつま町の小・中学校及び高等学校から計22人が参加し、**さつま町立宮之城中学校の水流薫平教諭の社会科授業**を通して、部落問題学習の実践について、研究協議を中心に学びを深めました。



## 文化財情報

北薩地区内の文化財は、国指定文化財が25指定、県指定文化財が45指定あります。最新の指定は、**出水貝塚出土品**です。令和3年4月23日に指定されました。詳しくは、鹿児島県HP文化財課に掲載されています。北薩地区の歴史や伝統、文化にふれてみましょう。（令和3年7月現在）

## 人権教育研修資料『陽だまり』の活用を!!

令和3年度版は、より活用しやすくするために、これまでの資料「なくそう差別 築こう明るい社会」「仲間づくり」を1冊にまとめてあります。また、人権が尊重される環境づくり例として**阿久根市立鶴川内中学校**や**さつま町立永野小学校**の取組が掲載されています。年間を通した積極的な活用をお願いします。



## 合同計画訪問

今年度の合同計画訪問は、小学校15校、中学校7校の計22校を予定しています。これまで訪問させていただいた学校では、靴箱や花壇、掲示物等が整っており、素晴らしい環境の中で学習に取り組んでいました。また、先生方がICT機器を積極的に活用し、集中して学習する児童生徒の姿がとても印象的でした。

## 連載 かがしま「GIGAスクール」推進

### 【ICT活用とノート活用を考える。】

各学校ではICT環境が飛躍的に整備され、合同計画訪問の授業では、その活用を見る機会が多くあります。積極的なICT活用をしていくことと同時に、**教師の板書と児童生徒のノート活用の必要性を再確認**しています。

自分の考えを文字にして書くことは、必要なことです。そして、他人の考えを自分の思考として再構築するにも、**文字による整理が必要**となります。そこでのノート活用は最高のツールです。学校におけるICT活用という新たなツールとの組み合わせに期待します。

## 編集後記

世界的イベントも地方の小さな祭も、誰かにとって大事な出来事。楽しく盛り上がる行事も、コツコツ頑張る普段の勉強も、大事な一コマ。楽しくても苦しくても、追い風も向かい風も、「今日も生涯の一日なり」